

島津の森での環境保全活動

① 土壌改良剤と堆肥の作成

「島津の森」の造成には、工場で廃棄される木製パレットなどの木くずを炭にして土壌改良剤として利用しているほか、構内の雑草や落ち葉から作った腐葉土を堆肥として使用するなど、社内の廃棄物を再資源化して活用しています。

土壌改良剤の作成



堆肥の作成



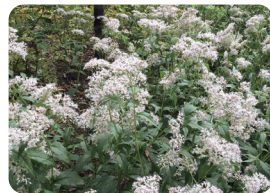
② 希少植物の育成

工場内にある「島津の森」は、防犯や安全上の理由から一般公開は行っていないが、そのため盗掘や獣害の防止、他産地の同種と自然交雑しにくい形での保全が可能です。京都市周辺でみられた里山林を再現し、そこで伝統文化を支えてきたいくつかの希少植物の保護・増殖を同時におこなう活動をしていきます。

京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定



フタバアオイ



フジバカマ



チマキザザ



キクタニギク



アサギマダラ

黒と褐色の模様と、透けるような薄い浅葱（あさぎ）色の斑（まだら）紋様の羽が特徴の大型の蝶です。また、世代交代をしながら海を越えて長距離移動「渡り」をする珍しい蝶として知られています。春から夏にかけては本州などの標高1,000メートルから2,000メートルの涼しい高原地帯で繁殖し、秋になると気温の低下と共に、遠く九州や沖縄さらに八重山諸島や台湾にまで海を越えて飛んでいきます。その途中栄養補給のために、フジバカマを好んで吸蜜にやってきます。島津の森のフジバカマでも毎年9月下旬から10月下旬に吸蜜に訪れたアサギマダラの姿を見ることができます。

株式会社 島津製作所

環境経営統括室

604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1

TEL: 075-823-1113 FAX: 075-823-2062

E-mail: kksitu@group.shimadzu.co.jp

島津の森

2014年の本社社屋建て替えにともなって敷地内の緑化をさらに推進し、生物多様性の保全・育成や在来種の自然植生などをコンセプトに、本社工場内に敷地面積約8,000m²の「島津の森」を整備しました。森には、85種、約1000本の草木を植栽しました。

この「島津の森」は、生物多様性の保全・回復への取り組みを客観的に評価して認証する制度であるハビタット評価認証（JHEP認証）において、2015年5月15日に京都府で初めて最高ランクである「AAA」評価を取得しました。

当社は、「島津の森」を工場緑地活動の一環に留めず、野鳥などの野生生物を市街地に回帰させる生物多様性に配慮した環境資源としての植栽を今後も継続していきます。

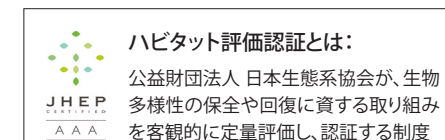
京都市内には、平安京の遺跡が数多くあります。

本社・三条工場も敷地を掘り起こすと、平安京の遺跡が現れ、昔の京都の姿を思い起こさせてくれます。「島津の森」では、その時代からの植物を保護することで、少しでも京都の文化を次の世代へ渡せればと考え、「平安時代の植生」を集めています。

人と地球にやさしい島津の森

ーハビタット評価認証（JHEP認証）を取得ー

- 京都府内で初 JHEP認証最高ランクAAA評価
- 地域本来の草木（スダジイ、アラカシ、フッキソウなど）を植栽
- 造成時に社内の廃棄物を再資源化して活用
 - ・廃木材パレット→炭化させ土壌改良材に使用
 - ・構内の雑草、落ち葉、剪定くずなど→腐葉土化し肥料に使用



生息が期待できる野生生物



「島津の森」平安時代の植物と生物たち

鳥と蝶



メジロ



アオスジアゲハ



オオムシクイ



ジョウビタキ



カワラヒワ



ツマグロヒョウモン



スズメ



アサギマダラ



ムラサキシジミ



ヒヨドリ

Science Promenade

オミナエシ

ワレモコウ

トチ

ミズナラ

ナナカマド

オトコエシ

ヤマジノホトトギス

コムラサキシキブ

カワラナデシコ

ムラサキシキブ

丸葉ウツギ

キクタニギク

フタバアオイ

クヌギ

マユミ

カシワ

開開

ヒオウギ



ツバメシジミ



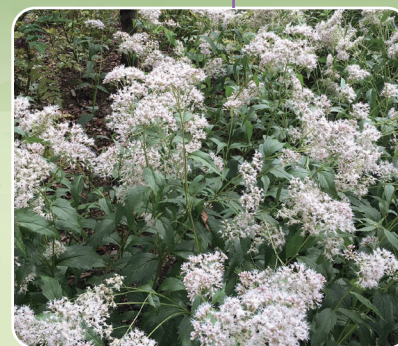
ハクセキレイ



モンシロチョウ



キジバト



フジバカマ



チマキザザ



※鳥や蝶はこれまでに島津の森で確認された種類を掲載しています。